

施策番号	1321		
施策名	京都のまちの特色に配慮した災害に強いまちづくり		
概要	都市空間や建築物，上下水道施設の防災対策や治山，治水対策を推進するとともに，防災水利構想に基づく事業の推進により，災害に強いまちづくりに取り組む。		
担当局	建設局	共管局	消防局・上下水道局・都市計画局
上位政策	132 災害に強く日々のくらしの場を安全にする		

### 施策の評価

#### 1 客観指標評価

	18年度	19年度	20年度評価				
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 公共施設耐震診断実施件数（件）	a	a	5	1	1	100.0%	a
2 防火水槽及び防火井戸整備数（基）	a	a	16	20	15	133.3%	a
3 河川整備（％）	b	b	53.6	54.4	54.8	99.3%	b
4 耐震診断対策事業に基づく利用件数（件）	-	-	167	223	179	124.6%	a
5 （準）10年確率対応下水道雨水整備率（％）	c	c	11.9%	15.1%	15.0%	100.7%	a
6 （準）緊急時における飲料水の確保日数（日）	a	a	87.5	88.1	88.1	100.0%	a
7 -	-	-	-	-	-	-	-
8 -	-	-	-	-	-	-	-
9 -	-	-	-	-	-	-	-
10 -	-	-	-	-	-	-	-
	a	a	客観指標総合評価				a

#### 2 市民生活実感評価

設問	建物の耐震対策や防火水槽の設置などにより，まち全体の防災機能は高くなってきている。					
回答	18		19		20	
	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
a: そう思う	25	4.8%	23	5.0%	53	7.6%
b: どちらかというと思う	122	23.4%	91	19.6%	178	25.6%
c: どちらとも言えない	216	41.5%	200	43.0%	261	37.6%
d: どちらかというと思わない	109	20.9%	102	21.9%	138	19.9%
e: そう思わない	49	9.4%	49	10.5%	64	9.2%
有効回答数	521		465		694	
市民生活実感評価	C		C		C	



\* この評価は，毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

### 3 総合評価（客観指標総合評価＋市民生活実感評価）

	18	19	20
客観指標総合評価	a	a	a
市民生活実感評価	c	c	c
総合評価	A	B	B
重み付け	(理由)		
<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標 <input type="checkbox"/> 市民の実感	この施策は、非常事態に備えるという性質上、平常時には市民に実感されにくいいため、客観指標総合評価を重視する。		

### 4 原因分析・今後の方向性

総合評価についてはB評価となっている。  
 本市においては、市民が安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指し、都市基盤整備や建築物の防災機能を強化してきた結果、客観指標総合評価は平成17年度から連続a評価という高い評価の維持につながっている。また、今年度は準指標の10年確率対応下水道雨水整備率（%）が単年度目標を達成し、c評価からa評価になった。  
 今後とも、木造建築物や袋路の多い京都のまちの特色に配慮しながら、地震等の大規模な自然災害に強いまちづくりを進めていく。

#### （参考）この施策実現のための主な事務事業

	事業名	19年度予算 (千円)*	20年度予算 (千円)*	19年度事務事業評価に おける今後の方向性	担当部・課
	1 区庁舎耐震改修推進	120,946	0	終了	文化市民局市民生活部政推進課
(従)	2 農業基盤整備事業	74,588	71,848	現状のまま継続	産業観光局農林振興室農業振興整備課
(従)	3 巨椋池農地防災対策	54,419	16,547	現状のまま継続	産業観光局農林振興室農業振興整備課
(従)	4 農地・水・環境保全向上対策	40,316	38,904	充実	産業観光局農林振興室農業振興整備課
	5 特殊地下壕安全対策	47,409	88,409	現状のまま継続	都市計画局都市企画部都市計画課
	6 建築物の防災に対する事務	18,013	17,887	効率化等による見直し	都市計画局建築指導部建築指導課・建築審査課
	7 建築物の耐震対策について	39,293	49,893	充実	都市計画局建築指導部建築指導課
	8 民間建築物の吹付けアスベスト対策	19,426	19,426	現状のまま継続	都市計画局建築指導部建築指導課
	9 既成宅地防災工事資金融資	3,111	3,111	現状のまま継続	都市計画局都市景観部開発指導課
	10 西羽東師川改修	24,980	106,580	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	11 西高瀬川改修	19,267	215,852	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	12 新川改修	260,740	23,090	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課

	13	善峰川改修	26,677	109,677	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	14	岩倉川改修	26,677	134,677	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	15	白川改修	131,377	0	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	16	七瀬川改修	184,782	40,747	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	17	西野山川改修	14,677	113,677	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	18	排水機場維持補修	268,722	377,072	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	19	幹線排水路改良	91,463	0	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	20	治水計画基本調査	13,340	13,340	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
	21	旧安祥寺川改修	183,129	111,129	現状のまま継続	建設局水と緑環境部河川整備課
(従)	22	土木工事の検査	28,843	28,843	現状のまま継続	建設局建設企画部監理検査課
	23	防火・防災普及啓発事業	120,706	0	終了	消防局 予防部、安全救急部 市民安全課
	24	消防用設備等設置資金融資	2,413	2,413	現状のまま継続	消防局予防部
	25	防災危機管理対策	923,622	903,647	縮小等による見直し	消防局防災危機管理室
	26	公共施設耐震診断調査	32,088	36,878	充実	消防局防災危機管理室
	27	消防水利整備	308,356	291,356	充実	消防局警防部消防救助課
	合計		3,079,379	2,815,001		
	うち、主たる事業の合計 (従たる事業の合計)		2,881,213 (198,166)	2,658,860 (156,141)		

\* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含む

施策名	1321	京都のまちの特色に配慮した災害に強いまちづくり
-----	------	-------------------------

指標名	公共施設耐震診断実施件数（件）
-----	-----------------

担当課	防災危機管理室	連絡先	212-6744
-----	---------	-----	----------

### 1 指標の説明

公共施設の耐震改修や補強を計画的に実施するための基礎資料となる耐震診断を各年度に実施した件数

### 2 指標の意味

公共施設の耐震改修や補強を計画的に実施するための基礎資料となる耐震診断を各年度に実施した件数

### 3 算出方法・出典等

各年度における公共施設耐震診断の実施件数  
出典：事業担当課調査

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	5	1	4件減少	1	中長期目標を達成するために、当該年度に実施を予定する公共施設耐震診断件数	100.0%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値	—	166	20年度	98.2%

備考	平成19年度までに163件実施 各年度の目標数は建築物の規模により変化する。
----	---

### 5 評価基準

単年度目標に対する達成度が  
a：100%以上  
b：80%以上100%未満  
c：60%以上80%未満  
d：40%以上60%未満  
e：40%未満

### 6 基準説明

単年度目標値に対する達成度が100%以上をaとし、以下を4段階に基準設定した。

### 7 評価結果

18	19	20
a	a	a

指標名	防火水槽及び防火井戸整備数（基）
-----	------------------

担当課	警防計画課・消防救助課	連絡先	212-6722 212-6732
-----	-------------	-----	----------------------

### 1 指標の説明

整備した防火水槽及び防火井戸の数

### 2 指標の意味

断水時、震災時等でも安定した消火用水が供給できる水利の増加数を示す指標

### 3 算出方法・出典等

整備した防火水槽及び防火井戸の数  
出典：事業担当課調査

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	16	20	4基増加	15	中長期目標を達成するために、当該年度に整備を予定する防火水槽及び防火井戸の数	133.3%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値	—	225	30年度	29.3%

備考	平成19年度までに66基整備
----	----------------

### 5 評価基準

単年度目標に対する達成度が  
a：100%以上  
b：80%以上100%未満  
c：60%以上80%未満  
d：40%以上60%未満  
e：40%未満

### 6 基準説明

単年度目標値に対する達成度が100%以上をaとし、以下を4段階に基準設定した。

### 7 評価結果

18	19	20
a	a	a

施策名	1321	京都のまちの特色に配慮した災害に強いまちづくり
-----	------	-------------------------

指標名	河川整備（％）
-----	---------

担当課	河川整備課	連絡先	222-3591
-----	-------	-----	----------

**1 指標の説明**  
本市が河川改修を実施している一級河川（11河川）の改修計画延長に対する改修済延長の割合

**2 指標の意味** 都市の水害に対する防災力を示す指標  
**3 算出方法・出典等** 改修済延長÷改修計画延長×100

**4 数値**

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	53.6	54.4	0.8ポイント増加	54.8	平成20年度実施予定区間延長を加算	99.3%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値	-	56.2	23年度	96.74%	-

「第10次治水5箇年計画（H19～H23年度）」に該当河川分を加算

**5 評価基準** 単年度目標に対する達成度が  
a：100%以上  
b：80%以上100%未満  
c：60%以上80%未満  
d：40%以上60%未満  
e：40%未満

**6 基準説明** 目標達成には、相当の努力を要するものの、目標値を上回ることとは不可能ではないため、100%以上の達成をaとし、20%刻みで等間隔に基準を設定した。

**7 評価結果**

18	19	20
b	b	b

指標名	耐震診断対策事業に基づく利用件数（件）
-----	---------------------

担当課	建築指導課	連絡先	222-3620
-----	-------	-----	----------

**1 指標の説明**  
本市が実施している耐震対策事業（木造住宅耐震診断士派遣事業、京町家耐震診断士派遣事業、分譲マンション耐震診断助成事業）の利用件数の合計

**2 指標の意味** 市民が建築物の耐震性についてどの程度関心を持っているかを示す指標  
**3 算出方法・出典等** 事業利用件数の総合計

**4 数値**

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	167	223	56件増	179	過去の利用実績から目標値を設定	124.6%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値	-	-	-	-	-

**5 評価基準** 単年度目標値に対する達成度（％）  
a：100以上  
b：90以上100未満  
c：80以上90未満  
d：70以上80未満  
e：60以上70未満

**6 基準説明** 耐震対策事業利用件数は毎年変動するものであるが、市民に対し最大限の利用を促すべきであることから、100%以上の達成を最高のaとし、以下10%刻みで設定した。

**7 評価結果**

18	19	20
-	-	a

施策名	1321	京都のまちの特色に配慮した災害に強いまちづくり
-----	------	-------------------------

指標名	(準) 10年確率対応下水道雨水整備率 (%)
-----	-------------------------

担当課	上下水道局計画課	連絡先	672-7839
-----	----------	-----	----------

### 1 指標の説明

事業認可区域面積に対する10年確率降雨対応浸水対策済区域面積の割合（大雨でも浸水がなく、安心して暮らせるまちにするため、10年確率降雨（62mm/時）に対応した浸水対策を進めている。特に、浸水被害が発生する箇所や地下街等の浸水リスクの高い箇所を重点的に対策していく。）

### 2 指標の意味

雨に強く安心して暮らせるための下水道事業（浸水対策）の進捗状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

10年確率降雨対応浸水対策済区域面積 ÷ 公共下水道事業認可区域面積 × 100

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	11.9%	15.1%	3.2ポイント増	15.0%	上下水道事業中期経営プラン（※前プラン）	100.7%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値	-	25.6%	24年度	59.0%	上下水道事業中期経営プラン（2008-2012）（新プラン）

備考	-
----	---

### 5 評価基準

単年度目標値と比較して  
a: 目標値超過  
b: 目標値どおり  
c: 目標値未満で改善度1/2以上  
d: 目標値未満で改善度1/2未満  
e: 現状維持

### 6 基準説明

目標値を上回る可能性もあるため、目標値以上を最高のaとし、目標値どおりであればb、目標値に達しなくても改善度が1/2以上であればc、1/2未満であればd、現状維持であればeと設定した。

### 7 評価結果

18	19	20
c	c	a

指標名	(準) 緊急時における飲料水の確保日数 (日)
-----	-------------------------

担当課	上下水道局企画調整課	連絡先	672-7743
-----	------------	-----	----------

### 1 指標の説明

災害発生等緊急時における飲料水（1人当たり1日3リットル）の確保日数

### 2 指標の意味

災害に強い水道の構築状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

配水池等の容量 ÷ (約150万人 × 3リットル/日)  
出典：京都市防災水利構想

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	18年度	19年度		数値	根拠	達成度
数値	87.5	88.1	0.6日の増	88.1	上水道施設整備事業	100.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値	-				

備考	阪神大震災において神戸市内のほぼ全域で完全復旧を終えたのが70日後（神戸市水道局発行「阪神・淡路大震災 水道復旧の記録」より）とされている。
----	--

### 5 評価基準

阪神大震災において完全復旧を終えた日数分（70日）の維持を目標として  
a: 71日以上  
b: 70日～57日  
c: 56日～43日  
d: 42日～29日  
e: 28日以下

### 6 基準説明

飲料水については、京都市防災水利構想の中で必要水量の設定を1人1日3リットルを基準としている。また、「京都市地域防災計画」の中では水道施設復旧の目標値を震災発生時から28日としている。阪神大震災において完全復旧を終えた日数が70日であったため、このレベルの維持を目標とした。目標を超える71日以上をa、「京都市地域防災計画」の目標値である28日以下をeとして、等間隔に基準を設定した。

### 7 評価結果

18	19	20
a	a	a